

＜先週の説教から＞

『詩編⑩—主よ、どのような人が』

詩編 15:1～5 マルコ福音書 11:15～19

毎月の最後の礼拝では詩編を共に読み進めています。今日は詩編15編です。この詩編は《入場の詩編》と呼ばれています。それは最初の1節によく表れています。即ち「主よ、どのような人が、あなたの幕屋に宿り、聖なる山に住むことができるでしょうか。」です。

これが質問の言葉であることはお分かりだと思います。「幕屋」は旧約聖書で、イスラエルの民が神様を礼拝する場所のことです。《会見の幕屋》とされています。また「聖なる山」とはシオンの山のことで、この山の上にエルサレム神殿が建っていたのです。故にこれも神様を礼拝する場所のことになります。つまり、この言葉は礼拝の場所へ向かうことに関係しているのです。ただ、分かり難くしている点が、ここで「宿る」とか「住む」という言葉があるため、あたかも礼拝場所や神殿に居住することが問題になっているかのように読まれる点なのです。

実は、この「宿る」は原語では(グール)で、「住む」は(シャーカーン)ですが、両方の言葉ともともと「身を寄せる」という意味で、旅人が夜に泊めてもらえる場所を捜して、知人や友人の家を訪ねて、迎い入れてもらえることを指す言葉です。故に、この「どのような人が、あなたの幕屋に宿り、聖なる山に住むことができるでしょうか」という言葉は(どのような人間が神様を礼拝する場所へと迎い入れられるのか)、(どんな人間が礼拝することを許されるのか)という意味を持つ問い掛けなのです。ですから、この後の2節で「それは、完全な道を歩き、正しいことを行う人」というように「～のような人」という言葉が続いているのです。まさに(神様を礼拝する人として望まれる人とはこんな人だよ)と具体的に挙げているのです。

どうでしょうか？ 言うならば、この詩編は礼拝場所への入場資格や神様に受け入れてもらえる人とはどういう人だろうかを問うている、吟味していることになるのです。それ故《入場の詩編》と呼ばれているのです。解説者の中には、最初の1節の質問が礼拝者、特にエルサレム神殿でのお祭りに出席しようと近隣の町や村から集まって来る巡礼者たちが「どんな人が入場を許されるだろう？」と言っている言葉であり、それに答えて2節以下で神殿の祭司たちが「それはこんな人たちだよ」と答えている言葉だと想定している解説者もおられます。

面白いのは、2節以降から5節まで入場にふさわしい人物について「～のような人」が次々と挙げられているので

すが、ちゃんと数えるとここに10個の「～のような人」があるのです。まるで旧約聖書の『十戒』のように！

ざっと見てみましょう。①完全な道を歩く人、②正しいことを行う人、③心に真実な言葉を持つ人、④舌には中傷を持たない人、⑤親しい人を嘲らない人、⑥主の目にかなわないものは退ける人、⑦主を畏れる人を尊ぶ人、⑧悪事をしないとの誓いを守る人、⑨金を貸しても利息を取らない人、⑩賄賂を受けて無実の人を陥れたりしない人です。最初の5つが2節と3節にあり、後半の5つが4節と5節にあります。見事な構成になっていることが分かります。

内容的には、神様との関係よりも対人関係に於いて「正しく生きている人」であることを推奨している言葉だと言い得るでしょう。この点では、律法を守ることを第一とする旧約聖書の信仰に基づいていると言い得るでしょう。それならば、私たち新約聖書の信仰に生きる者にとっては、これらの言葉をどう受け止めれば良いのでしょうか？

実は、よくこれらの言葉を見ると、①は「足」、②は「行い=手」、③は「心」、④は「舌」、⑤は「口」、⑥は「目」、⑦以降は身の回りの様子となっています。これはまさに自分の「体」の部分で、下から順番に「問うている」言葉になっていることが分かるのです。まさに自分で自分の体の器官をひとつひとつ《自己吟味する》ようにと。これこそ(礼拝に出る前の心構え)と言い得るのではないのでしょうか？自分が本当にこの礼拝に、神様の前に出る者としてふさわしい者であるかをよく吟味してごらん下さい！

そう言われると私たちはとても合格点をもらえる者だとは思えません。むしろ、失礼しましたと帰ってしまいたくなるのではないのでしょうか。いや、だからこそイエス様の十字架による罪の赦しが必要だということではないのでしょうか。それなしに神様の前に出られないと。まさに自らの罪を感じ、悔い改めを為す者こそ《礼拝にふさわしい者》だということでしょう！そうではないのでしょうか。

最後に、キリスト教の教会の歴史に於いてこの詩編がどう読まれて来たかを調べますと、カトリックや聖公会の教会暦では、イエス様の昇天や山上の変貌の箇所として引用されて来たことが分かります。それは「あなたの幕屋に宿り、聖なる山に住む」を天のみ国へと入ることが出来る人とは「どのような人」だろうかと読まれて来たということを示しています。なるほどですね。ただ、これもその行いや言葉の正しさではなく、ただひたすら主の十字架の赦しを信じる信仰によって、私たちは天のみ国へと迎い入れてもらえると思われて生きてきたのではないのでしょうか。このコロナ禍の中、改めて考えさせられます！

No. 62 - 10

# 週報

2020年度 教会標語

「生活の真ん中に礼拝する心を！」

2021年 3月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会  
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>